

2010年7月
日本原子力学会
原子力発電部会

原子力産業の海外展開について

【見 解】

原子力は、エネルギー供給源としての役割に加えて地球環境問題への貢献ということで、世界的に再認識されている。世界レベルでみると将来にわたるエネルギー供給の逼迫問題および温暖化ガス排出量削減という、相反する問題への唯一の現実的解決手段として原子力が位置づけられている。

したがって、これから原子力の導入を目指している国々に対して、世界で最も低い原子炉の計画外運転停止率を誇るなど我が国の信頼性の高い原子力産業技術を海外展開することは世界全体のメリットになると考える。

加えて既に原子力発電を導入している諸国に対しても、前述の理由と同様に積極的な展開を図るべきものであると考える。

【学会としての取組む意義】

わが国の原子力産業の海外展開を進めるに当たり、これまでの政府間レベルおよび産業界レベルでの相手国との協力関係のみならず、大学・研究機関を含む学会レベルでの協力(交流)関係についても一層の充実も重要である。

学会レベルでの知の展開においては、相手国における原子力産業の安全性の確保に貢献すると共に原子力産業として特別に重要な意義を持つ核不拡散技術の積極的な提供も併せて行う必要がある。

【産官学連携の必要性】

上記に加え、今後原子力発電利用の導入を予定している国々を対象として、産官学の人的連携協力、特に各国の社会状況を考慮した人材育成の協力についても積極的に行うべきと認識している。具体的には、法令、行政機構、保安管理体制の構築などについては我が国が積極的に貢献できる領域であり、当学会としても活動を強化して原子力産業の海外展開に協力すべきものであると考える。

以上